令和５年度　自己点検・自己評価報告書

学校法人野又学園
函館短期大学付属幼稚園

令和５年度　自己点検・自己評価報告書　目次

Ⅰ　建学の精神、教育目標
　１．建学の精神と学園訓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　２．教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　３．重点目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
Ⅱ　教育の実施体制
　１．施設型給付幼稚園に移行して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　２．教員組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　３．学園関連校との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　４．学習環境の整備・なかよしファーム・・・・・・・・・・・・・・・・　３
Ⅲ　教育内容
　１．教育課程の編成と実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　２．特色ある教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
Ⅳ　園児に関すること
　１．園児数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６
　２．園児募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
Ⅴ　教員に関すること
　１．教員の資質向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
　２．教員の研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
Ⅵ　社会との連携に関すること
　１．地域社会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
　２．ＰＴＡ活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
　３．広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
　４．子育て支援活動『つぼみちゃん活動』・・・・・・・・・・・・・・１０
Ⅶ　管理運営
　１．学校運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　２．危機管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　３．自己点検・評価体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
Ⅷ　財務について
　１．財務運営について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　２．予算編成方針と執行状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

（別紙　資料）
　①　令和５年度　保護者の評価の集計結果と考察

学校法人野又学園　函館短期大学付属幼稚園

令和５年度　自己点検・自己評価　報告

Ⅰ　建学の精神、教育目標

１．建学の精神と学園訓

幼稚園が創立してから５７年を経過して、道南・函館市の幼稚園教育の発展に寄与してきた。学校教育法によると、「幼稚園は幼児を保護し、適当な環境を与えて心身の発達を助長することを目的とする」とある。

創立者はこの時期こそ、人間形成の基盤を確立する時であると考え幼児教育からの学園の一貫教育を目指した。

この建学の精神を踏まえ、本学園は幼児教育に相応しい環境を与えるための施設設備に最大の努力を払うとともに、教員の資質の向上こそが質の高い保育を目指す上で基盤になると考えて、研修活動の充実を図ってきたところである。

２．教育目標

本園は、建学の精神の具現化に努めるとともに、学園訓を園児たちにわかりやすく理解できるように、日常的な活動と結びつけながら取り組みを行っている。

○ おとうさん　おかあさん　ありがとう　【情操】

①　豊かな情操（感謝・感動）　　②社会態度（協調・思いやり）

◎いろいろなものに美しさを感じ、豊かな感性をはぐくむ
◎身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ
◎人の言葉や話をよく聞き自分の経験したことを話そうとする

○ すなおに　ただしく　おぼえましょう　【知的】

①　思考力（考える力・工夫する力）　　②創造力（創造性・想像性）

◎自然の中の色々な事象に興味や関心をもち遊びに取り入れようとする
◎身近な事象を見たり触れたりする
◎経験したことを自分の言葉で表現し伝え合う喜びを味わう
◎イメージを豊かにもち、いろいろな表現を楽しむ
◎絵本や物語などに親しみ、想像を豊かにする

○ すすんで　よいこと　いたしましょう　【意志】

①　健康な身体（活動・意欲）　　②生活習慣（自主性・安定性）

◎幼稚園生活を楽しみ自分の力で行動しようとする
◎体を十分動かして進んで運動しようとする
◎社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける

３．重点目標

『 すこやかに、たくましく そしてやさしい心を 』

① 豊かな環境で生き生きと育ちあう活動
② 自主性・創造性をはぐくむ活動
③ 小動物や自然に親しみ、豊かな感性をはぐくむ活動
④ 絵本や音楽、製作・表現活動に親しみ、豊かな感情をはぐくむ活動
⑤ 徒歩降園・遠足・登山などを通して、健康・安全への意欲を育てる活動
⑥ 給食や弁当を通して、家庭と協力しながら「食」の楽しさを味わう活動
⑦ 英語遊びを通して、外国との違いや日本のよさに気づく活動

Ⅱ　教育の実施体制

１．施設型給付幼稚園に移行して

平成２８年度から施設型給付幼稚園に移行して、順調に各段階での取り組みを進め定着を図ってきたが、少子化による園児数減少は否めない状況にある。

① 保護者への周知・理解

園児数の減少により施設型給付費の収入が減ることから、収支のバランスを考えていかなければならないことを説明し理解を求めた結果、特に大きな混乱もなかったが、保護者からは、今までと同じような幼稚園として進めていってほしいとの要望が出され、保護者の意見、要望などを聞きながら進めていくことを確認した。

② 書類の作成・整備

移行後、各種書類の作成も順調に行えるようになり、給付がスムースに行えるようになった。各種書類についても市と連携をとることで確実に提出することができた。

２．教員組織

本園の専任・非常勤の合計教員数は、園長１人、教頭１人、教諭８人、パート職員３人、非常勤講師４人、事務１人、給食補助１人で合計１９人である。

専任教員の年齢別構成は６０代２人、５０代１人、４０代１人、３０代１人、２０代５人である。平均年齢は３７歳である。

【現状】

今年度は新採用者は取らず、現状のままで行ってきたため、先生たちも一番経験の浅い学級担任でも３年目ということで、ある程度の力量を身に付け指導に当たっているため、力を発揮して保護者の信頼も厚く，園児が安心して幼稚園生活を楽しんでいる。

【課題】

各クラスの保育に関しては力量をつけつつあるが，園全体としての保育・教育についての質の向上に力を注いでいく取り組みが必要である。今年度は教務主任の先生が産休・育休から復帰し、各クラスの状況を掴み、若手の教員の相談にのっていた。また、園児数の割りにはパート職員数が多く、今後その点も考えていかなければならない。

３．学園関連校との連携

学園の各校とは日常的に連携を強化しているが、特に、函館短期大学とは連携協定を平成２５年に結び、付属幼稚園としての機能を発揮できるようになった。

○ 函館短期大学
- 学生が園児と関わる活動を多く取り入れる。（ 観察実習等 ）
- 運動会において，ボランティアとして園児の面倒をみてもらう。

※上記２点今年度は，コロナウイルス感染症対策のために中止してから行っていない。
- ２年生による創作劇を年長児が鑑賞する。

○ 函館短期大学付設調理製菓専門学校
- 津波による避難訓練を合同で実施し、調理製菓の校舎３階までの避難を行っている。

○ 函館大学付属有斗高校
- 幼稚園の運動会での施設利用、活用（６月２５日）

○ 函館短期大学付属柏稜高校
- 幼稚園の生活発表会での施設利用、活用（１１月２６日）
  会場設営等を学生が行ってくれる。
- 音楽発表会での床用マットの借用（２月１７日）

【現状】
函館短期大学とは連携協定を結んでいることから、人的・物的にも幼稚園運営に当たって力添えをいただいている。他の関連校とも連携を強め、各行事などでのお力添えをいただいている。

【課題】
今後、深堀保育園や上湯川保育園との連携を進め、カリキュラムや行事での園児や教員の交流・研修などを進めていく必要がある。

４．学習環境の整備・なかよしファーム
保育を充実させるために、園の施設全体で常に園児が学びを構成していけるような環境づくりに力を注いでいる。
園庭では、砂場の活用や固定遊具などで園児の遊びの内容を確実に広げていけるように整備を計画的に取り組んでいる。
ホールでは、縦割り保育や自由に遊ぶことが出来るような環境構成を作り上げていく取り組みを日常的に行っている。

○ なかよしファームの整備・活用充実
なかよしファームでの自然体験（幼稚園自然農園）野菜や果物の栽培
住宅地域にあるため、畑だけではなく、**ビオトープ的**なイメージで自然環境を園児たちに感じていくことが出来るよう食物連鎖を見たり、感じ取ることができるよう職員・ＰＴＡ役員ともアイディアを出し合っている。

ａ）本年度は、園児が積極的に日常的に世話をして野菜や果物を育ていけるように園児が活動しやすいような道具を整備した。
　クラスで育てるものを決めて、畑に自分たちで植えることで水をやりながら植えたものの成長を確認した。
・春ダイコン（年長）― お泊り会で収穫して、家に持ち帰った。
・じゃがいも（年長）― ２学期になってから、収穫を体験した。
・さつまいも（年中）―各家庭に持ち帰り食べた。また、給食に蒸かしたさつまいもを提供し全園児で食べた。
・トウモロコシ（年中）― 夏休み中に親子で収穫体験をし、家に持ち帰った。
・枝豆（年少）― 夏休み中に親子で収穫体験をし、豆のもぎ取りも一緒に体験した。家に持ち帰った。
・さくさく王子（ひよこ）―　１学期後半から収穫し幼稚園で茹でて食べた。また、夏休み中に親子で収穫し、家へ持ち帰った。
・スイカ、ミニトマト、きゅうり、レタス、かぼちゃ、ブルーベリー、ぶどうなどを収穫した。特にスイカは８玉収穫出来、給食時に全園児で食べた。

Ⅲ　教育内容
１．教育課程の編成と実施
◎豊かな心と考える力の育成
中期経営目標　のびのびと遊び、多様な体験や経験をする中で、豊かな感性や知的好奇心を養い、自ら考え取り組む意欲や態度を育てる。
短期経営目標　・豊かに感じ、人とのかかわりや様々な体験を通して思いやりや協同する力を育む。
・感動する心や物事に気づく力を養い、主体的に考えたり試したりすることで思考力を育てる。

①　英語遊び（５月～２月）‥‥各学年１家庭１回ずつ１名の参観を実施

〇年長組…ガルシア先生と一緒に発音や単語など、基本的な内容を繰り返し行う。（１６回）

〇年中・少・ひよこ組…高品先生と一緒にリズムや踊りを通して、英語に親しんだり楽しむ内容を行う。（年中：１５回、年少：１０回、ひよこ７回）

②リズム遊び　（ひのき屋 ４回　５月３０日、６月２７日、１０月１８日、１月２４日、２月１日）の計５回

・全園児がひのき屋の太鼓のリズムに合わせて踊ったりするだけでなく、太鼓叩いたり，楽器を鳴らしたりして、リズム感を養い、園児の身体の成長や脳の発達をしっかりと支える取り組みを行った。今年度もコロナのために２部制で行った。

③音楽鑑賞会（１２月１４日）

・本園保護者でバイオリン演奏者星野さんによる、コンサートを開催
保護者２１名参加。貴重な時間を過ごすことが出来た。

◎ 基礎体力・運動能力の定着を図る。

中期経営目標　計画性をもって運動遊びや体づくり活動を充実させ、元気な基礎体力と運動能力を養う。

短期経営目標　・日常から 進んで体を動かし、運動の楽しさを感じとり、友達と元気に遊ぶ園児を育てる。
・遊具や備品・教材を見直し、安全に楽しく運動できる環境を整える。

①　体育遊び ー（金曜日　年長：１１回、年中：１０回、年少：９回、ひよこ：５回）各学年１家庭３回ずつ１名の参観

・園児全体に、基本的な体づくりのための運動を中心に進め、各種のスポーツに興味を持ち楽しめるように取り組む。

② 水泳遊び ー（木曜日　年長：１０回、年中：８回、年少・ひよこ：７回）各学年１家庭３回ずつ１名の参観
今年度から実施場所を短大よりジョイフィットスポーツジムに変更

〇園の周囲の散歩（桜ヶ丘通り ４月２４日）

〇園 外 保 育（五稜郭公園　５月１日）：コロナのため園内飲食禁止のため，帰園後お弁当を食べる。

〇運　動　会（有斗高校 ６月２５日）

〇函館山登山（９月１５日）年長のみ
〇函館公園周辺（年中・年少・ひよこ）

〇雪　遊　び（香雪園 １月１９日）

③「レッツ・ダンシング！　みんなで踊ろう」（２月２２日）

・本園保護者でダンス教室の先生をしているＵｇａさんを講師に、親子でダンス体験を行っ

た。保護者２９名参加で楽しい時間を過ごせた。

２．特色ある教育活動

１）　感性をゆさぶる園内外の自然環境の活用

・街の中にある幼稚園として、遊び、そして各環境を活用して園児に知的好奇心を育てるための取り組みを進めている。

、①　園庭での自然体験

ア）園庭の樹木

・四季折々に花を咲かせる花木類

・園の周囲の木々の色々な形や色の葉や実を活動に利用する。

・秋には園のシンボルでもあるかしわの木から、実や大きな葉を遊びに利用する。

②　園外での自然体験を通して知的好奇心を育てる

○ 年間を通しての取り組み

ア）桜ヶ丘通り散歩　（４月２４日）

・幼稚園の近くの桜並木を園児全員で見て、春を感じながら散歩をする。

イ）五稜郭公園遠足　（５月１日）

・五稜郭公園まで歩いていき、春を感じる。

ウ）いちご狩り遠足（６月１４日）

・広いいちご園の中で自由に園児の手でいちごを摘み取り、自然を感じる。

エ）秋の遠足

函館山登山（９月１５日）年長児全員が函館山の自然に触れながら、山頂を歩いて目指す。

函館公園周辺　年中・年少・ひよこ園児が元町水源地や函館公園の自然に触れながら散策した。

オ）りんご狩り遠足（１０月３日）

・りんご園でなっているりんごを園児の手で摘み取り、実のなりを感じる。

２）　食育を通して園児を育てる活動

○ 食に関しての興味を園児に持たせる。

①　米の苗植え（６月５日　年長児）

田んぼでの苗植えを体験した。（森町濁川地区山本農園）

②　稲の観察・写生　かかしの設置（７月１８日

稲の生長具合を観察するとともに、自分達で製作した案山子を設置した。

③　稲刈り（９月２５日　年長児）

自分たちの植えた稲の収穫を体験した。

④　クッキー作り（１０月１９日　年中児）

年中児が保護者と一緒にクッキーをデザインし、焼いて完成させた。

⑤　スイートポテト作り体験（１１月９日）

短大食物栄養科の職員と数回の打ち合わせを行い、当日職員４名と学生３名にスーイトポテト作りを教えてもらい作った。その後、職員と学生さんが焼いてくれ、自分で作ったスイートポテトを味わった。美味しいと評判であった。

⑥　米のもみすり機（精米）体験（１２月６日　年長児）
森町濁川の農家山本さんが精米機を持参し、もみすり体験を行った。

⑦　もちつき（１２月７日　全園児）
全園児と保護者が協力して、餅つきを行い、ついた餅を昼食として食べた。

⑧　ケーキ作り（１２月１１日　年長児）
・ペシェミニョン・パティシエである本園保護者の指導の下、年長児がそれぞれの考えでケーキにデコレーションを行い、完成後、講評していただくことで感性を伸ばす取り組みになった。その後、全園児でデコレーションしたケーキを食べた。

⑨　玄米の試食（１２月２１日　全園児）
年長児が育てて収穫した米と玄米を給食時間に食べ比べした。

３）　園児を育てる幼小連携活動
・函館市立駒場小学校と連携を強め、小学校への入学がスムースになるような取り組みを行った。

①　みんなで遊ぼう　年長児と１年生の交流（年長児）（７月５日）
・駒場小学校の体育館で、年長児と１年生が交流を深める。

②　ハロウィンを楽しもう　全園児と１年生と交流（１１月６日）
駒場小学校でインフルエンザ流行のため、１０月３０日の予定を延期
・幼稚園のホールで全園児と１年生でハロウィンを楽しもう会を行った。
その後、年長児と１年生でゲームも行った。

③　なかよしフェスティバル　年長児と２年生の交流（１２月１９日）
当初１１月３０日の予定が駒場小でインフルエンザ流行のため延期
・駒場小学校の体育館で年長児と２年生が対面式（接触のない形）で交流を深めた。
内容は小学２年生の「なかよしフェスティバル」に参加

Ⅳ　園児に関すること

１．園児数

園児数の推移は減少傾向にあり、さらには満３歳児での入園を控える家庭が多い傾向にあった。そのため、園児数の減少とともに給付費も減少している。令和６年度は下記のように６１名の園児数である。（満３歳児については、誕生日を迎え３歳となる前日から園児数として数えることができるため、年度末には園児数は７０名となる。）

◆園児数の推移　　（５月１日現在の園児数）

Ｈ３０	Ｒ１	Ｒ２	Ｒ３	Ｒ４	Ｒ５
１１５名	１１４名	１１０名	９６名	８６名	６１名

【課題】
少子化についてはどうしようもない問題である。ホームページを中心に幼稚園の様子等を知らせ、入園に結びつける活動を各機関と協力しながら進めることが必要になっている。また、入園希望者の８割はつぼみちゃんの参加者であることから、つぼみちゃんの活動を工夫しながら進めている。満３歳での入園を強く進めていくことが大切である。

２．園児募集
園としての考え方がわかる募集要項を作成して活用を図っている。特に、通園にはバスを使わないメリットをしっかりと訴えてきた。
また、先生ブログの更新や園長の「かしわの木」の発信など、ホームページの充実を常に心がけている。

【現状】
今まで行っていた看板での園児募集を止め、ホームページで幼稚園の様子を紹介することや自作のポスターなど、幼稚園の良さを知ってもらう取り組みを続けている。また、「つぼみちゃん」への参加者を多く集めることが大切と考える。
【課題】
バスのない幼稚園としては、登園する家庭の地域が限られることから、バスの運行も考える必要がある。また、幼稚園の考え方や教育内容をわかってもらうことで、園児獲得につながっていくので、そのための取り組みを園全体で考え取り組んでいく。

Ⅴ　教員に関すること

１．教員の資質向上
教育目標の達成をめざし幼稚園全体、学年や学級で定期的に取り組みの状況を知らせ合うなど、家庭や地域との連携を深めるために情報の共有化を積極的に推進し、日夜研鑽に取り組んでいる。

【現状】
打合せ等を日常的に行い，教員の資質向上に関することについて共通理解を図っている。各自の課題も持ちながらその解決のために研修を深めている。

【課題】
学園の職員としての資質向上についても、力を入れていくことが必要である。

２．教員の研修
幼稚園教育の状況が大きく変化してきている中で、教育情報を的確にとらえ、月に１回を全体での研修と位置づけ、その時に各自の個人の研究なども使いながら研修を深めている。

１．研修会参加
１）サマースクール‥‥コロナのため中止

２）北海道私立幼稚園教育研究大会道南ブロック大会‥‥保育公開園となり、100 名程の参加者に保育を参観してもらい、好評であった。

３）全道初任者研修会‥‥該当者なし

２．園内研修会
１）園内研修会
①４月２２日（土）　９：００～１１：００
・各クラスで気になる園児についての全職員の理解と交流
・公開保育内容について

②５月２７日（土）　９：００～１１：００
・講演：子どもを伸ばす「イキイキ」「ワクワク」「ドキドキ」
講師：函館短期大学　保育学科　教授　白幡　俊一　氏

③７月２２日（土）　９：００～１１：００
・北私幼道南ブロック研究大会の公開保育の内容についての検討

④８月２６日（土）　９：００～１１：００
・北私幼道南ブロック研究大会の公開保育の内容についての検討

⑤１１月２８日（火）・２９日（水）
・保育実践セミナー「子どもの心を満たす絵本活用術」（オンライン受講）
講師：内田　早苗氏　　藤田　春義氏

⑥１２月２３日（土）　９：００～１１：００
函館市特定教育・保育施設等関係職員研修（オンライン受講）
・講演：発達障がい等の配慮を要する子や保護者への対処
講師：北海道教育大学函館校　特任教授・名誉教授　青山　眞二　氏

⑦１月２７日（土）
・講演：「ワーキングメモリーと子ども理解」
講師：函館短期大学　保育学科　准教授　白府　士孝　氏

【現状】
幼稚園の現状としては、特別支援教育がとても重要な視点となっているため、短大に専門の先生が来ていただけたことは大変心強いところである。今年度の研修には入っていないが、園児の観察と保護者への説明等で数回来園して指導を受けた。さらに研修機会を深めていくことが大切である。

【課題】
なかなか時間を取ることができないが、全体で研修の時間を作り、これからの幼稚園の在り方について研修を深めていくことが必要である。

Ⅵ　社会との連携に関すること

１．地域社会との連携

柏木町会などに園からの情報発信を積極的に行い、ＰＴＡ・地域・小学校との相互のコミュニケーションを豊かにして説明責任を果たしている。
園の行事などについても、町会などに知らせることで園と地域社会とのつながりを強めていくことになっている。近隣の小学校との幼小連携も駒場小学校だけではなく積極的に進める。

【現状】
柏木町会や柏木商友会などとの行事などに積極的に協力を進めることが出来た。今年度

は町会の夏祭りに園児による子ども神輿を初めて参加した。また、幼稚園の生活発表会の総練習を観覧していただき、９名の参加があった。

【課題】
近隣の小学校との連携を行事だけでなく、スタートカリキュラムなどについても研修等を企画していくことが求められているが､今年度はそこまで踏み込むことが出来なかった。来年度はその点についても交流していきたい。

２．ＰＴＡ活動
保護者と教職員が一体となって、園児の健全な成長のための取り組みを積極的に行っている。これからも幼稚園と価値観や活動を共有し合い協力を進めていきたい。親子遠足、夏祭りなどの行事に対して主体的に活動を進めている。

（１）ＰＴＡ子育て相談
小岩先生に子育てについての悩んでいることを相談できる機会を学期ごとに設けて、好評を得た。

①　親子遠足（５月１２日）
四季の杜公園で開催。園児・保護者は一緒にバスに乗車し行った。親子で楽しく過ごす取り組みを企画した、

②　保育参観日（５月３１日　８５名、９月２日　１００名）
③　父母懇談会　（７月７日　３９名）

④　夏　祭　り　（７月１５日）・・・大盛況

⑤　父母懇談会（２月２０日）‥‥２部に別れて（３３名参加）

【現状】
ＰＴＡ総務が中心となって、行事に対して積極的に活動を行っている。行事内容を再度考えて実施した。ＰＴＡ全体が園に協力的で考え方を一緒にして活動を進めている。

３．広報活動
園児募集に関しての広報のあり方が中心であったが、本幼稚園の良さを広く伝えることが有用と考え、広報の仕方を根本的に変更してきた。
園児にとって価値ある保育・教育を受けることが出来るという広報の仕方で、特に、これから幼稚園に通うような幼児を持つ保護者に訴えるように広報を進めてきた。
自作の募集ポスターを近隣のお店に掲示してもらったり、ホームページで幼稚園の日常の様子を紹介することでどんな幼稚園かを知ってもらうことにした。

１）ホームページ活用・充実
・ブログ活用
ホームページのリニューアル化で、幼稚園の様子をブログで紹介することができるようになり、保護者から高い評価をもらった。
また、入園希望者がホームページを見て園の活動内容などに賛同して入園を考える保護者が多くなってきた。
保護者・祖父母限定の動画配信も行い、好評であった。

【現状】
園の活動の様子、特に行事などでは各報道機関に知らせ、取材が入ることもあり、広報の一つの方法としてできた。また、ホームページの閲覧者が多いため、この点を重視し活動している。
【課題】
今後は各情報を的確に分析しながら、効率的に組み合わせて活用しながら広報活動に活用を図っていく取り組みを幼稚園内で進めて行く。また、ブログでの内容の検討が必要である。

４．子育て支援活動『つぼみちゃん活動』
未就園児（満２歳～３歳未満）の子どもとお母さんが、より多くの親子と関わり、親しみ、幼稚園で楽しく遊ぶ体験ができる場として、また、お母さん同士で子育ての悩みや相談などができる交流の場となるように活動した。
今年度も加入数が５０組になり、常時１７組程度の親子の参加がみられた。今年度は予定通りに開催出来、内容に対するアンケートを取ることができた。１８回の開催となった。
また、この活動に参加するために幼稚園に来る機会が増え、満３歳児のひよこのクラスの活動を見学することで、入園を考える保護者が増えた。

【課題】
今後とも、幼稚園の教育活動を理解してもらう活動に力を入れていくことが求められる。また、満３歳を迎えたお子さんの家庭には入園を進めていく必要もある。

Ⅶ　管理運営
１．学校運営
幼稚園を取り巻く環境等を冷静に分析することを通して、幼稚園の特色を生かし、組織的な創造力を発揮する運営体制を確立していく。教育目標の具現化を図るとともに、園児の達成状況が把握しやすいよう、行事などで園児の成長を読み取り、園児の成長の様子を具体的に具現化を図りながら、保護者などに示していく。

１）預かり保育の充実
保育終了後、午後６時３０分まで専任の職員を配置し、さらにパート職員の勤務時間を調整し午後５時３０分まで勤務してもらったことで正職員の負担が軽減された。今年度は預かり保育を予定通り実施することができた。本園では活動内容を事前に月ごとに保護者に知らせることで、安心して利用することもできている。
今年は例年より多く年間延べ５４００名程の園児の利用であった。

２．危機管理体制
令和元年度は危機管理について、職員で共通理解を図ることができた。また、他機関との連携を図るなど、さまざまな危機を想定し、具体的な対応ができるよう危機管理能力の育成を図ってきた。危機管理マニュアルについては今年度一部を追加し改訂した。

１）防犯カメラの設置
防犯上の対応の一つとして設置している。今後、職員や保護者の危機管理の意識を高めていく。

２）各保育室、遊戯室、職員室へのエアコン設置
今年度の夏は記録的な猛暑のために、２日間臨時休業とした。３月末には各部屋にエアコンが設置され、今後は臨時休業等の対応がなくなることと思われる。

【現状】
調理製菓専門学校と連携を図り、避難訓練や津波の時の避難場所としての練習などを行っている。

【課題】
降園時における危機管理について、園と保護者が協力をして対応を進めて行くことについて話し合いをもっている。

３．自己点検・評価体制
教職員に年度末に反省を踏まえて、自己評価を提出してもらい、その分析と保護者の評価を基にして全教職員と面談を実施している。
全教職員と日常的には共通理解を図る取り組みを行っているが、全教職員で年度末に課題として残ったこと、次年度に積極的に取り組んでいくことを共通理解している。
また、今年は保護者に１０項目にわたる評価表を渡して評価をしていただいている。

【課題】
次年度の幼稚園の経営や運営に活かしていくことが出来るように評価を整理し、共通理解を十分にしていくことが求められている。

Ⅷ　財務について

１．財務運営について
少子化による園児の減少により、幼稚園入園者の減少は今後さらに加速していく傾向にある。そのため、施設型幼稚園として園児定員数を下げるなどしながら財政面での安定を進めていく。
今後一層の厳しい経営環境に備える必要がある。安定した園児確保のためにも、保護者のニーズに合うように対応を考えながらも、園としての考え方を前面に出し、園児獲得に取り組む。
施設が老朽化してきており、施設については改修改善を図り安定した教育環境の維持・提供も必要になってくる。

【課題】
健全な財務運営のための園児獲得を積極的に進めていくためには、園の教育内容を広く周知してもらうための取り組みを積極的に行っていく。

２．予算編成方針と執行状況
予算編成においては、保育料ではなく、平成２８年度から施設型給付になったことで給付金収入になった。そのため人件費や管理経費等の支出とのバランスをとり、単年度収支の健全化を図るようにしていた。しかし、人件費の多さもあり今年度も赤字となってしまった。
予算の執行においては、その執行時に再度内容を精査し、より効果的に執行できる可能性を探り、最大限の支出削減に努めている。また、光熱水費においては設備の経年による効率の悪化を配慮しながらも、よりきめ細かい管理による効率化を図っていきたい。施設内の照明についてはＬＥＤとなった。園児数減少により、パート職員を減らすなども行った。
老朽化してきている施設等の整備に関しては、随時、本部とも協議しながら対応を進めて行く。